

## GUIで操作が容易なUTMにリプレースし、 全社のネットワーク管理負担を軽減、 コスト削減も

東映株式会社では、全国20カ所のネットワークルーターとして、SonicWall® NSA4600、NSA3600、NSA2600、TZ600、TZ300 Wirelessを導入。拠点間ルーター以外の用途で導入されたものも含めると、約30台の機器が稼動中だ。ベンダーに頼らず、わずか10名のスタッフで全拠点のネットワークを管理・運用できる体制を整え、効率的に日々の運用を行っている。

### カスタマー・プロフィール



企業名: 東映株式会社  
業種: 映像制作・配信  
所在国: 日本  
Webサイト: <http://www.toei.co.jp/>

### 課題

通信機器をリースで使用していた東映では、一部の管理運用業務をベンダーに委託していたが、コスト削減および障害発生時の対応をスピードアップするため、自社ですべてのネットワークを管理したいと考えていた。リース満了を迎える通信機器が多数ある状況で、自社で管理しやすくコスト削減につながる製品を求めている。

### ソリューション

GUIベースで管理運用しやすく、また大容量のトラフィックに耐えるSonicWallシリーズを導入。全国の各拠点の規模に合わせて、SonicWall NSA4600、NSA3600、NSA2600、TZ600、TZ300 Wirelessを配置した。

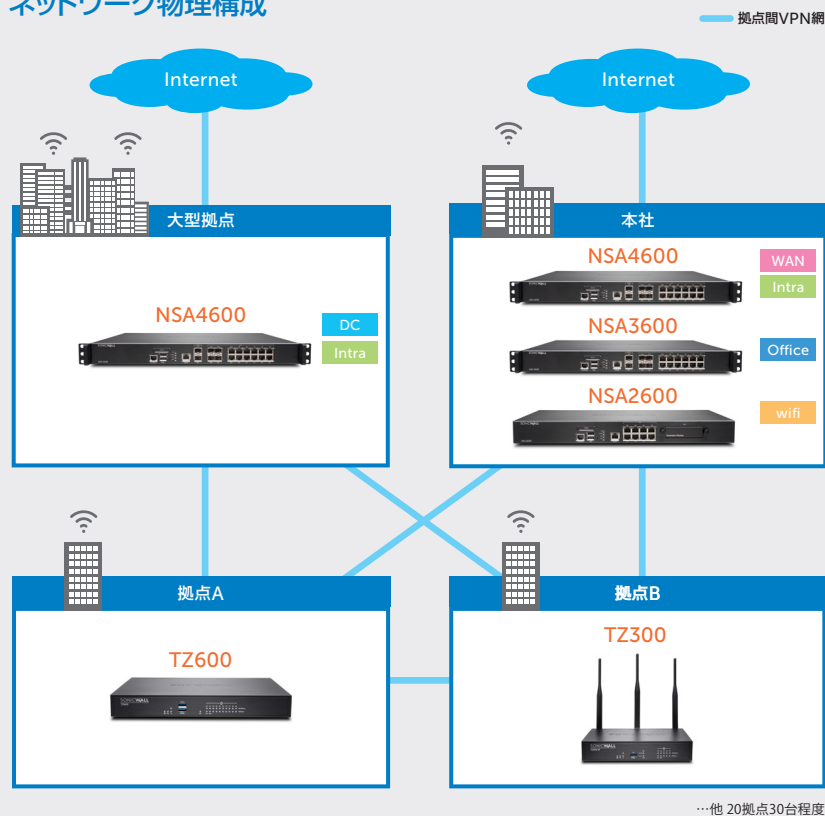
### 導入効果

- 全社のネットワークを自社のスタッフ10名で管理、運用できる体制に。
- 機器の入れ替えにより、約35%のコスト削減。

### ソリューションエリア

- ネットワークセキュリティ

### ネットワーク物理構成



「他社の製品にもパフォーマンスが高いものがありました  
たが、ファイアウォール等のセキュリティ機能を稼動すると、  
SonicWallシリーズがより通信速度が速いという結果が  
出ました」

東映株式会社  
情報開発室  
室長代理  
小原一志氏

# SonicWall シリーズの導入で、 全社のネットワークを完全に自社で管理・運用。 コスト削減に加えて管理工数の削減も

## 20カ所の拠点を結ぶネットワークを 本社の10名で管理

映画やテレビ番組の制作を行っている東映株式会社(以下、東映)では、全国20カ所の拠点や関連会社をネットワークで結び、日々の業務に活用している。

ネットワークやシステムの管理について、東映では、導入の検討から運用、管理まで、すべてを社内の情報部門である情報開発室で行っている。情報開発室のスタッフはわずか10名。全国の各支社や関連会社を結ぶネットワークについても、情報開発室で管理。各拠点には運用担当者は置かず、本社からリモートによる管理を行っている。

「自分たちで入れたものを自分たちで運用するため、運用担当者の役割は非常に重要です」(小原氏)

ネットワークに接続されているPCやサーバー、通信機器等は約800台。これだけの規模のネットワークを限られた人数で運用するため、一部の運用についてはベンダーに作業を委託していた。しかしこれが運用上の課題になっていたと小原氏は話す。

「社内の担当者だけではカバーしきれない部分について、導入している製品のベンダーにも管理・運用の一部を委託していました。しかしこれが運用上の課題となっていました。ネットワークはもはや会社のインフラですから長時間止めるわけにはいきません。そのため障害が発生したとき、自分たちの知見で対応できそうなら、できるだけ早く対処したいのですが、業務を委託しているため決まった手続きを踏まねばならず、そこに時間的なロスが発生していました。委託にかかるコストも課題ではありましたが、最も大きな課題は運用の中での時間的なロスでした。なんとか自社で管理・運用をすべて行えるようにしたいと考えていました」(小原氏)

### 導入システム

#### ハードウェア

SonicWall NSA4600

SonicWall NSA3600

SonicWall NSA2600

SonicWall TZ600

SonicWall TZ300 Wireless

## リース満了を機に 機材の入れ替えを検討

東映では6年リースで機材調達を行っている。2016年にリース満了を迎える通信機器が複数あることから、情報開発室では今後の管理をすべて自社で行うことを考え、より管理しやすい通信機器を求めて検討をスタートした。

「運用において業務を委託しているために生じている時間のロス、加えてそのコストを削減したいと考えていたので、現状のままリースを続けることは選択肢にありませんでした。コストもかかっていますが、コスト以上に運用の手間がかかっているのを、そこを解消できるものを探していました」(小原氏)

より管理の手間がかからず自分たちで運用が可能であること、コスト削減が可能であること、かつ現在の通信機器よりも高い性能のものを求めて、東映では複数のメーカーの製品について比較、検討を行った。検討の過程で重視されたのは通信速度、そして運用における使いやすさ。映画や映像を制作している会社であることから、ネットワークを流れるデータもファイルサイズの大きいものが多い東映。GB単位のデータは一般的であり、A0版など大判ポスターのデータではTB単位のことも。常に大容量のデータが行き来していることもあり、できる限り通信速度が早く、運用しやすいものが求められた。

各メーカー機器の比較、検討にあたり、テスト環境を構築し、通信速度や使いやすさな

「SonicWallの製品を扱うのは初めてでしたが、GUIは直感的に操作できるので非常に分かりやすく、すぐに操作を覚えることができました」

東映株式会社  
情報開発室  
木本雄大氏

どを比較。最終的にSonicWallシリーズを選んだ理由を、小原氏は次のように話す。「各メーカー、それぞれ特性があり、その中でもSonicWallの製品が我々のニーズに最も合致していると思えました。他社の製品にもパフォーマンスが高いものがありました。ファイアウォール等のセキュリティ機能を稼動すると、SonicWallシリーズがより通信速度が早いという結果が出ました」

SonicWallのUTMでは、ファイアウォールやウイルス検知など、さまざまな対策を実行しながら同時に通信も行うため、一般的なルーターよりも高パフォーマンスな処理が可能。そのため、チェックを行いながら通信を行う場合、容易に高スループットを発揮できることを、検証で確認したと小原氏は話す。

「ファイアウォールでセキュリティをかけ、かつアンチウイルスを実行しながらの通信を試してみたところ、他のルーターよりも大きなトラフィックを流すことができました。他社のルーターにもファイアウォール等の機能がついているものもありますが、ルーターのみの機能で使用したときは通信速度が速いものも、セキュリティ機能を稼動しながらになるとスループットが落ちてしまうものが多くあり、SonicWallシリーズのスピードには驚きました」

約3か月の検証を経て、東映ではSonicWallシリーズの導入を決定。リース期間が満了した機器から順次入れ替えを行うこととなった。

### 拠点の規模によって 豊富なラインナップから 適切なモデルを選べる魅力

東映では2016年5月より順次入れ替えを進め、同年9月にリプレースを完了。全国20カ所に計30台のSonicWallが導入された。各拠点に配置されたのはNSA4600、NSA3600、NSA2600、TZ600、TZ300 Wirelessの5モデル。これらを接続するネットワークの規模によって使い分けしている。

「本社とデータセンターはミッドレンジモデルのNSA4600、支社にはTZ600、それより小さい拠点はTZ300というように、各拠点で接続する端末の台数によってモデ

ルを使い分けています」(木本氏)

豊富なラインナップもSonicWallシリーズの特徴だが、ネットワークの規模によって各モデルを使い分けられるのは大きなメリットだと小原氏は話す。

「メーカーによっては大規模ネットワーク用と小規模ネットワーク用の二種類しかありません。中間レベルのものがないので、我々のような使い方やネットワーク規模にはちょうどいいものがないこともあります。小規模用のものではトラフィックの増加時に性能不足になる可能性もあり、かといって余裕を持った大規模用のものでは無駄が多くなります。ネットワーク規模に合わせて適切なものを選べる選択肢の広さは、コストパフォーマンスを考えてもたいへん魅力的でした」

### 標準規格のプロトコルで 管理監視も容易

また東映では、従来から使用していた運用監視ツールを使い続けている。使い慣れたツールで管理、運用が行えることについて、小原氏は次のように話す。

「監視や管理をするために使用する規格には標準的なものがあります。これは共通規格なので、そのプロトコルが流れていれば、そのデータを活用して分析することができます。しかし専用ツールが用意されている機種では、そのツールを使う前提のため、そうした機能が用意されていないこともあります。機器に合わせてツールも変更するという考え方もありますが、必要な情報を利用したい形で取り出すには、やはり使い慣れたツールが一番です。SonicWallシリーズの場合、標準規格の監視用プロトコルをツールに流すことができるので、ツールの自由度が高く、それもよかったです。データを見やすい形に加工したりするケースもあるので、以前のツールがそのまま使えるのは、データの扱いを変えなくてすみずみ、運用を大きく変えなくていいので、我々のように少人数で管理運用を行っている組織にとっては、非常にメリットがあると思います」

### コスト削減に加え、今後の ネットワーク環境を検討する 時間的余裕も増加

SonicWallの導入によって、全体で約35%のコスト削減が実現。コストだけに留まらず、ネットワークにおける障害発生率が下がったこと、また障害が発生した際にも対処が早く行えるようになったことで、これまであまりチェックできなかったデータを見る時間が増えたこともメリットとしてあげる。「今、どういったトラフィックが流れているのか、またどんなプロトコルが多くなっているのかなど、ネットワークの現状を把握して今後につなげるためのデータを見る時間が増えました。これまではなかなかそうした時間をとることが難しかったのですが、今後のネットワークや管理態勢を検討するうえでも必要なことなので、リプレースによってそうした時間が増えたことはとてもよかったです」(小原氏)

「今後は標的型の攻撃が増えてくるのではないかと考えています。攻撃のターゲットとなったときにも、早期に検知して対応できるよう、サンドボックスを始め、さまざまな製品や技術を導入していく予定です」

東映株式会社  
情報開発室  
室長代理  
小原一志氏



東映株式会社  
情報開発室  
室長代理  
小原一志氏



東映株式会社  
情報開発室  
木本雄次氏

## 分かりやすく使いやすい GUIによるメニュー操作

SonicWallのツールがGUIで操作できる点も、高く評価されている。それまで使用してきたルーターはコマンドによる操作が必要だったが、これは自社で管理、運用を行いたい東映にとって、大きなメリットがあったと木本氏は話す。

「SonicWallの製品を扱うのは初めてでしたが、GUIで直感的に操作できるので非常に分かりやすく、すぐに操作を覚えることができました。メニューも日本語に対応しているので、機能も探しやすい、このメニューの中にあるのでは、と考えながらメニューを辿っていくと、必要な機能がすぐに見つかるので、操作に迷うことはありません。従来のコマンド操作に比べると経験の浅い管理者でも扱いやすいので、当社のように自社でネットワークを管理する必要がある場合には、とても助かっています。また、他社の管理ツールにデータを流すにも、コマンドは必要なくGUIから操作できるので非常に楽ですね」(木本氏)

リプレースで機器のメーカーを変更するケースでは、サポートも気になる点のひとつだが、これについてもたいへん満足していると木本氏は話す。

「サポートのレスポンスが非常によいですね。質問を送ってから回答をもらうまでの時間が短いので助かっています。回答をもらってからそれをもとにメンテナンスを行ったり、障害対応をするときもありますが、回答待ちの時間が短いということは、こちらの動きが早くなるということでもあります。例えばネットワーク障害が起きた場合、疑問があれば問い合わせを行い、その結果を待って次の動きをとるようなことはよくありますが、スピーディに回答がいただけるので、待つフェーズが短くなり、時間的にも気持ち的にも助かっています。初歩的なことから高度な内容まで、幅広く対応していただけているので、初めてUTMを導入される方にもお勧めできると思います」

## 標的型攻撃に備えて サンドボックスの導入も検討

東映では、拠点間のネットワークにVPN (Virtual Private Network) を使用しているが、セキュリティに関して今後より強化していきたいとして、さまざまな対応を検討している。

「ソフトウェアのセキュリティホールや脆弱性には常に関心を払っています。しかしそれだけではなく、社内で使用するUSBメモリなどのデバイスからウィルスに感染するといったこともあります。そうしたケースにも漏れなく対応していかなければなりません」(小原氏)

現在、東映では、SonicWallのルーター機能を活用しながら、アンチウィルスや拠点間ファイアウォールUTMとしての活用を進めている。さらに、今後増加すると考えられている標的型攻撃に備えて、サンドボックス導入の準備も行っている。

「コンテンツを扱う会社ですから、万が一にも素材や映像の流出などはあってはなりません。ウィルスやマルウェア対策はパターンでの検出で対応できますが、今後は標的型のような未知の攻撃が増えてくるのではないかと考えています。そうした攻撃のターゲットとなったときにも、早期に検知して対応できるよう、サンドボックスを始め、さまざまな製品や技術を導入していく予定です。社員がまったく意識していなくても安全が守られている、そんな環境が理想だと思います」(小原氏)

東映の作品を作り上げるネットワークを、今後もSonicWallが支えていく。

ユーザ導入事例ウェブサイトにて、ほかにも多くの事例をご覧ください。 <https://www.sonicwall.com/ja-jp/home>